

ミドリヒョウモン

Argynnis paphia

タテハチョウ科



ミドリヒョウモン

名前の由来

翅の裏側が緑色のヒョウモンチョウの意味と思われる。
ヒョウモンは豹紋と書き、哺乳類の豹の模様から由来する。
漢字名：緑豹紋

特定種

該当なし。

形態的特徴

後翅裏面が緑色がかった地色に白い帯のある大型のヒョウモンチョウ。表面はオレンジの地色に黒い紋が散りばめられた、ヒョウモンチョウ的な模様。

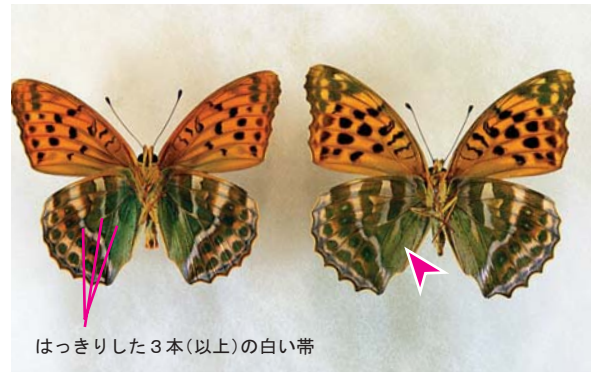
類似種と見分け方

クモガタヒョウモン、メスグロヒョウモンなどのヒョウモンチョウ類。

ミドリヒョウモンの後翅裏面の白い縦のスジはミドリヒョウモンでは3本以上あるが、クモガタヒョウモン、メスグロヒョウモンでは1本のみか又ははっきりしない。



ミドリヒョウモン。表（左がオス、右がメス）



はっきりした3本(以上)の白い帯

ミドリヒョウモン。ウラ（左がオス、右がメス）



クモガタヒョウモン。オス（左が表、右がウラ）



メスグロヒョウモン。オス（左が表、右がウラ）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期	■					■						
幼虫期	■											
蛹期			■									
成虫期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地から山地の林内の小空地、林道沿い、林内にも見られる。

分布：国外分布は、ユーラシア大陸など。国内分布は、

九州以北の日本全土。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山間部まで広く分布し、数も多い。

繁殖生態・寿命

年1回発生。成虫は7月に出現。越冬態は1齢幼虫。母蝶は林縁や林内の地表付近を飛び、地表の枯れ枝やカツラ、マツ類などの樹木の太い幹に産卵する。中には10m以上高さの樹幹に産卵するものもいる。スマレを特に意識して産卵しているのではないらしく、産卵場所周辺にスマレが全くないということも珍しくない。スマレ自体への産卵例もない。孵化後どのようにして幼虫が食草にたどりつくのか、またたどりつけないも

のがあるのかなど不明である。

しかし春、スマレ類がわずかに芽吹く頃夕方若葉を食べている1齢幼虫が見られ、それは樹木の根元の株が多い。2～3齢まではその株に留まる。終齢に至るまで主として夕方から夜間にかけて摂食する。

蛹はスマレからかなり離れた太い枯れ枝の下と樹幹の下部のくぼみから発見している。寿命：不明。

他生物との関わり

*幼虫はエゾノタチスボスマレ、タチツボスマレなどのスマレ類を食草とする。

*成虫の吸蜜植物はセイヨウタンポポ、ヒメジョオン、エゾノサワアザミ、ノリウツギなどの他多くの種が確認されている。

*蛹からヒョウモンヒメバチが羽化することがある。

*前蛹がクモやアリに食べられた例がある。

*交尾中の個体を小鳥が食べた目撃例もある。

幼虫の食性（食草）

エゾノタチスボスマレなどのスマレ類。

ただし母蝶は直接スマレに産卵するのではなく、近くの木の幹などに産卵する。翌春、卵からかえった幼虫が自らの力でスマレの株を探し求める。（→繁殖生態・寿命の項参照）



エゾノタチツボスマレ。ミドリヒョウモン幼虫の食草の一つ

興味深い話

■明るい開けた環境が似合う蝶ではあるが、いざ産卵となると母蝶は幼虫の食草であるスマレ類のありそうな林の中ややぶにもぐりこむ。そこで直接スマレに産卵するのではなく、近くの木の幹などに産卵する。翌春、卵からかえった幼虫は動き回り、自らの力でスマレの株を探し求める。（→繁殖生態・寿命の項参照）

■ミドリヒョウモンの求愛行動は独特で、メスが直線的

に飛ぶのをオスは追跡飛行する。その飛び方はオスがメスの下方からメスの前方を急上昇し、メスの後方からまたメスの下側に出る、というのを繰り返す。この飛行の後、メスが静止すると、オスは触角でメスに触れたのち交尾する。

■十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

スマレ類の自生する林が必要。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981
「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978
「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
「埼玉蝶の世界」埼玉昆虫談話会編 埼玉新聞社 1984
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新

聞社 1986
「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅲ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1983
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類